

1 重点的に取り組む主な経営課題

めざすべき将来像に対して、今、何が課題となっているのか

課題に対して、3～5年程度でどのような状態をめざし、どういった施策をいかに展開するのか

戦略に即して、26年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか

経営課題	めざす成果及び戦略	具体的取組	業績目標	前年度までの実績	市政改革プランとの関連
<p>【3 子育て層が定着するまちづくりの推進】</p> <p>《めざすべき将来像》 ・多様なライフスタイルの家庭が、安心と喜びを実感して子どもを産み育て、住み続けたいとなるようなまち、子育て世帯が増加するまち。</p> <p>《現状》 ・仕事と子育ての両立を望む方は全市的に増加している。当区では平成18年以降出生数が前年を上回っており、乳幼児人口が増加傾向にあるが、小学校就学時までには減少する。</p> <p>未入所児童数 平成23年4月 108人 平成24年4月 109人 平成25年4月 92人</p> <p>待機児童数 平成23年4月 1人 平成24年4月 56人 平成25年4月 12人</p> <p>母子健康手帳の交付数 平成22年 677人 平成23年 716人 平成24年 747人</p> <p>出生数の推移 平成22年 448人 平成23年 514人 平成24年 584人</p> <p>小学校就学予定者名簿登録数の推移 平成23年 230人 平成24年 211人 平成25年 264人</p> <p>児童虐待相談件数 平成22年度 47件 平成23年度 99件 平成24年度 106件</p> <p>子育てつどいのひろばの参加組数(月平均) 平成22年度 228組 平成23年度 310組 平成24年度 396組</p>	<p>【3-1 子育て支援体制の充実】</p> <p>めざす成果</p> <p>《めざす状態》 ・保育所待機児童の解消 ・乳幼児健診の未受診者の把握 ・子育てサロンの増設 ・虐待ケースの早期発見と対応</p> <p>《アウトカム》 ・平成27年度までに待機児童を解消する。 ・平成27年度まで未受診者の100%フォローを維持する。 ・平成27年度までに子育てサロンを全小学校区において設置する。 ・平成27年度まで重篤ケースゼロを維持する。</p> <p>戦略</p> <p>・仕事と出産・子育ての両立を支援するため、多様なニーズに対応するなど保育サービスの充実を図る。 ・妊婦が安心して出産・育児ができるよう、妊娠期～乳幼児期に重点を置いて要支援者へのサポートの充実を図り、児童虐待を防止する。 ・地域や子育て支援団体の協力のもと、子育てに関する情報提供、相談支援体制を強化する。</p>	<p>【3-1-1 保育所待機児童の解消】 ・新規マンション建設による保育ニーズの高まりや、待機児童の増加に対応するため、関係局と連携して保育所開設に向けた方針決定を行うとともに小規模保育事業等を実施する。</p> <p>[局予算額 74,120千円]</p> <p>【3-1-2 妊娠期～乳幼児期を通じた子育て支援と児童虐待防止】 ・乳幼児健診未受診者のフォローを徹底するため、課内検討会を開催する。(月1回) ・浪速区要保護児童対策地域協議会を構成する関係機関の連携強化を図るため代表者会議等を開催するとともに、関係機関スキルアップのための研修会を実施する。</p> <p>[予算額 103千円]</p> <p>【3-1-3 地域における子育て支援体制の充実】 ・区内の子育て支援団体との相互協力による情報発信やイベントの実施に取り組む。 ・親子フェスタ参加者数、参画団体の増をめざす。 ・浪速区役所子育てつどいのひろばの参加者の増をめざす。 ・子育て情報紙の発行(年4回)となにわっ子ネット会議の定期的開催。(年12回) ・子育てマップの配布。(日本語・英語・中国語・韓国語版) ・地域ふれあい子育て教室(プチ浪速っ子広場)の開催。(年6回) ・子育て支援の拠点として、子育てサロンの区内各地域での開設を支援する。そのため地域団体や社会福祉協議会と連携し設置について働きかけていく。(5か所) ・外国語通訳派遣による子育て相談を実施する。</p> <p>[予算額 4,511千円]</p>	<p>・小規模保育事業実施見込み数 19人分</p> <p>【撤退基準】 ・保育所または小規模保育事業を開設、実施できない場合は再構築する。</p> <p>・未受診者フォロー100%を維持。</p> <p>【撤退基準】 ・課内検討会で未受診者フォローが100%できない場合は事業の再構築を図る。</p> <p>・親子フェスタ 参加者数計500人以上、参画・協力団体 24団体以上 ・子育てつどいのひろば 参加組数月平均450組以上 ・子育てサロンの新規開設(4か所)</p> <p>【撤退基準】 ・親子フェスタの参加者数が350人を下回った場合は実施形態の再構築を図る。 ・子育て支援ネットワークを構成する浪速区役所子育てつどいのひろばについては、参加組数月平均300組を下回った場合には、実施形態の再構築を図る。 ・子育てサロンの新設がなされない場合は支援の方法を再構築する。</p>	<p>・新規保育所は公募により1か所について決定し、平成26年度より開設予定。 ・保育ママ事業は5人分1か所、20人分1か所が平成25年度に開設された。</p> <p>[24決算額 ー円] [25予算額 26,031千円]</p> <p>・未受診者フォロー課内検討会の開催(12回) ・心理相談員の配置 ・児童虐待防止研修会を開催(平成26年3月)</p> <p>[24決算額 ー円] [25予算額 2,738千円]</p> <p>・親子フェスタの開催(平成25年度参加者数計622人、参画・協力団体21) ・なにわっ子ネット会議の定期的開催(12回)による子育て情報紙の発行(4回) ・子育てマップの配布(日本語・英語・中国語・韓国語版) ・地域ふれあい子育て教室(浪速っ子広場)の開催(年12回) ・浪速区役所子育てつどいのひろば参加者数(平成25年度 月平均433組) ・子育てサロンの開設(平成25年度 5か所)</p> <p>[24決算額 3,052千円] [25予算額 3,920千円]</p>	<p>こども青少年局CM所管事業</p>

<p>《要因分析》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国出身の方をはじめ、地域とのつながりが希薄な方など生活基盤が脆弱な中で、孤立感や育児不安に陥りやすい状況にある。</li> <li>・出生数は増加しているものの、低家賃の世帯向け住宅が少ないことや、待機児童数が多いことから就学時までの転出者数が多い。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出生数の増加及び仕事と子育ての両立を望む方の保育ニーズへの対応が課題となっている。</li> <li>・外国出身の方や、地域とのつながりが希薄な方などの育児負担感を和らげるため、地域団体と協働して安心して子育てできるよう、支援する体制を整備する必要がある。</li> </ul>																													
<p>【教育委員会事務局 所管事業】</p> <p>《めざすべき将来像》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市学校適正配置審議会の答申による適正規模の学校に再編し、良質な教育環境を整備する。</li> </ul> <p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年5月現在、区内の9小学校すべてが12学級以下の小規模校であり、そのうち、複式学級を有する小学校もある。</li> </ul> <p>《要因分析》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数が減少しているにもかかわらず学校数は変わっていない。</li> </ul> <p>①出生率 平成22:7.8人 昭和55:10.8人</p> <p>②児童数</p> <table border="0"> <tr><td>（平成25年）</td><td></td></tr> <tr><td>浪速区</td><td>1,143人（一校あたり127人）</td></tr> <tr><td>大阪市</td><td>114,623人（一校あたり384人）</td></tr> <tr><td>（昭和54年）</td><td></td></tr> <tr><td>浪速区</td><td>3,308人（一校あたり330人）</td></tr> <tr><td>大阪市</td><td>242,410人（一校あたり836人）</td></tr> </table> <p>③学校数</p> <table border="0"> <tr><td>（平成25年）</td><td></td></tr> <tr><td>浪速区</td><td>9校（50学級）</td></tr> <tr><td>大阪市</td><td>299校（4,614学級）</td></tr> <tr><td>（昭和54年）</td><td></td></tr> <tr><td>浪速区</td><td>10校（110学級）</td></tr> <tr><td>大阪市</td><td>290校（6,307学級）</td></tr> </table> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が学校生活を通じて切磋琢磨できる環境確保のため小規模校の統廃合を進める。</li> </ul>	（平成25年）		浪速区	1,143人（一校あたり127人）	大阪市	114,623人（一校あたり384人）	（昭和54年）		浪速区	3,308人（一校あたり330人）	大阪市	242,410人（一校あたり836人）	（平成25年）		浪速区	9校（50学級）	大阪市	299校（4,614学級）	（昭和54年）		浪速区	10校（110学級）	大阪市	290校（6,307学級）	<p>【3-2 良質な教育環境の整備】</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;">めざす成果</div> <p>《めざす状態》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の小規模化の解消。</li> </ul> <p>《アウトカム》*重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度に小学校2校の統合を実施。</li> <li>・平成27年度までに区内小学校3校の再編プランを実行する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;">戦 略</div> <p>・保護者・地域住民の理解を得るため教育委員会と連携して、統合にかかる説明会を開催し、諸課題については解消に努め、保護者、地域住民との合意形成を図る。</p>	<p>【3-2-1 学校配置の適正化】★</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会事務局と連携して、保護者・地域住民等の説明会の実施。(3校)</li> <li>・収容避難所、投票所等社会的な施設利用の在り方について検討・整理する。(2回)</li> </ul> <p>[予算額 一円]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再編プランに基き、保護者・地域住民への理解を深めるために重点的に説明会を実施する対象校を前年度以上拡大する。</li> </ul> <p>【撤退基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象校における保護者・地域住民の説明会を実施できなければ、事業を廃止する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校について、保護者、地域住民等との協議を行った。</li> </ul> <p>[24決算額 一円] [25予算額 一円]</p>	
（平成25年）																													
浪速区	1,143人（一校あたり127人）																												
大阪市	114,623人（一校あたり384人）																												
（昭和54年）																													
浪速区	3,308人（一校あたり330人）																												
大阪市	242,410人（一校あたり836人）																												
（平成25年）																													
浪速区	9校（50学級）																												
大阪市	299校（4,614学級）																												
（昭和54年）																													
浪速区	10校（110学級）																												
大阪市	290校（6,307学級）																												